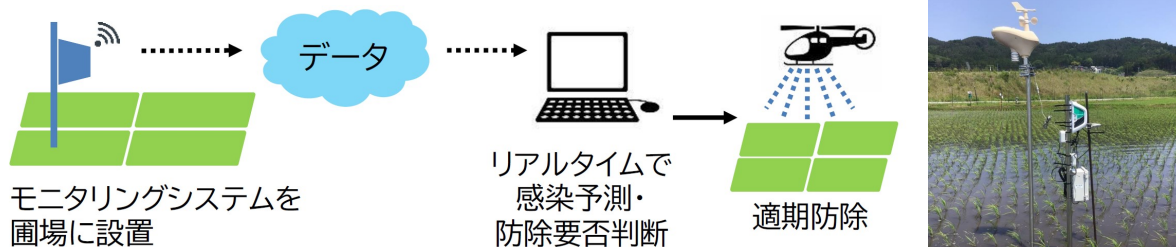


いもち病の高精度予察による防除要否判断の検証

【成果の概要】

イネ品種の持つ抵抗性や圃場の気象条件などに応じて防除要否を判断できる技術を開発しています。



- (1) 実際の圃場の気象データを利用して、従来よりも高精度な発生予察を行う手法を開発しています。
- (2) 将来的に以下の計算を自動で行うアプリを作製し、防除の判断を支援することを目指しています。
 - ア 代表圃場に設置した屋外モニタリングシステムから、気象データをリアルタイムに取得します。
 - イ 取得した気象データを基に、感染好適条件の判定や積算冷却度の計算などを行います。
 - ウ 葉いもち発生状況などと勘案し、総合的な穂いもち発生リスクを評価して防除要否を判断します。

【検証事例】

現地試験では気象データと葉いもち発生状況から“ひとめぼれ”の穂いもち防除を省略したところ、穂いもち被害は生じませんでした。

いもち病 発病調査結果2020 (各圃場30株×3)				
試験区	品種	いもち防除	葉いもち発病 (7/28)	穂いもち被害率率(%) (9/1)
モニタリングに基づき 防除要否を判断	ひとめぼれ	葉いもち防除実施 穂いもち防除不要と判断	なし	0.06
慣行区	ひとめぼれ	慣行	なし	0
穂いもち防除省略区	つぶゆたか	葉いもち防除のみ	なし	0.01
慣行区	つぶゆたか	慣行	なし	0

※ 慣行防除はファーストオリゼ箱粒剤(葉いもち対象) + コラトップの無人ヘリ散布(穂いもち対象)

【留意事項】

- (1) 現段階では直接本技術を利用することはできません。自動で判定を行うアプリを開発中です。
- (2) いもち防除の要否判断は毎年その都度行う必要があります。
- (3) 本技術は引き続き、葉いもち発生時など様々な実証データを収集して検討を継続します。
- (4) 現段階では、モニタリングシステム1台につき、50ha程度の規模での使用を想定しています。
- (5) 今回の試験の場合、屋外モニタリングシステムに係る費用は、一式で約30万円です。

【お問い合わせ先】 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（中央農業研究センター）

〒305-8666 茨城県つくば市観音台 2-1-18 TEL: 029-838-8902 E-mail: otak220@affrc.go.jp